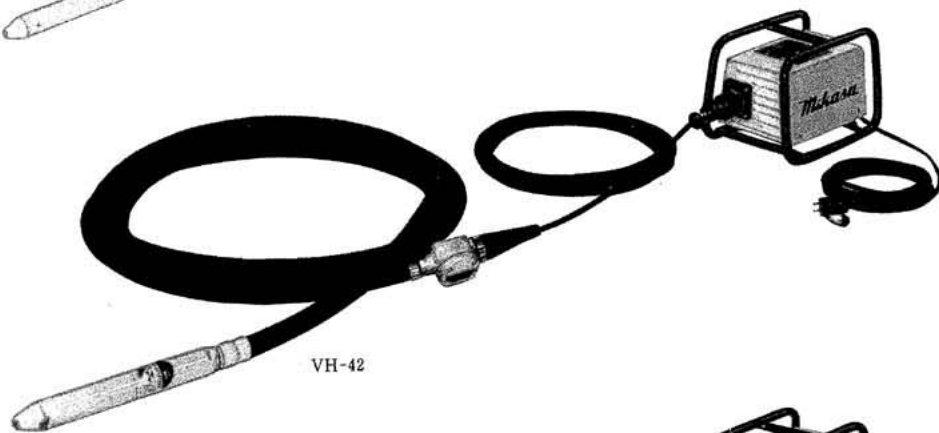


新製品

次世代のコンクリート打設に

MICRO COMPUTER CONTROLLED CONCRETE VIBRATOR

マイコンバイブレーター登場!!



三笠産業ではこのたび、世界で初めてマイクロコンピュータ（マイコン）制御による画期的なコンクリートバイブレーターの開発に成功し、量産化されることになりました。

それはメカトロニクスの応用によりパワーアップと軽量化を同時に実現したものです。

このマイコンバイブレーターとは、一般家庭用電源をコントローラー（制御器）に於いて出力を変換し、振動筒に内蔵され

た三笠独自のマグネットモーター（ブラシレス・センサレス）を回転させます。そして、モーターからの出力信号を、コントローラー内に組み込まれたマイコンに送り、瞬時に回転数を判断し、コンクリートに最適な振動数を維持させることのできる画期的なコンクリートバイブレーターです。従って日本国内はもとろんのこと海外に対しても特許を申請中です。

従来のマグネットモーターの

するのが特長です。
 そして入力電源は一般家庭用
 の一〇〇Vで使用でき、コント
 ローラー内の制御基盤には防塵
 対策を施し、強制冷却により温
 度上昇を最小限度に押さえてい
 ますので耐環境に非常に優れて
 おります。また、断線、短絡、
 振動体のベアリングロック等の
 トラブルに際してはコントロー
 ラー内のマイコンにより保護回
 路を働かせてモーターの焼損防
 止を行っています。

いろいろな想いを駆り立てられる。社会主義にしても資本主義にしても時の流れに従い建築物のように手直しが必要なことは凡人一般の常識である。しかし国家や社会のイデオロギー修正は現実にはそう簡単な手直しが出来ものではない。そこで革命という手段

人的な力量や人格がよほど強力でないといつの国家を束ねることは難しい。ところが民主的であろうとすれば個人の強力な人格や力量ばかりに任

を背負う使命感の火は個人のも感情などよせつけないのかも
しれない。いっぽう資本主義
社会の乾ききつた風潮も目に
余る。かといつてクオバディ
ス（何処に行く？）の問いか
けだけでは何の進展もなから
う。ふと我にかえれば日本は
夏祭りのにぎわいである。

ついていた無駄な振動を振動筒に
集中させることによってより強
力な振動にすることができまし

三銃一撃

発行所
東京都千代田区猿楽町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222-4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

ブラシレスモーターはセンサ部にホール素子等を必要とし、一般的モーターとしては使用できませんが、振動の大きいパイプレータ等には使用できませんでした。が、本機のモーターには振動に耐えられるような特殊な

東西ドイツの統一が余りにも急ピッチで進められるので正直のところ眼をパチクリしている。国際政治情勢に特別深い関心を寄せているわけではないが、最近のゴルバチョ

など発生するが、それも一度で決まった例はなく、ルーマニアも第二革命の気配をはらんでいる様子。

リーダーになった人物の個

せることは本来許されるものではない。世界中を驚かせたほど爽やかな印象で登場し活躍するゴルビーは、夜更けに枕につくとき、我一人になつたときどんな想いを去来させ

がつき、4 ケタ

お知らせ

平成 3 年 1 月 1 日から、
東京03地域の 3 ケタ市内局番の前に 3 がつき、4 ケタ
になります。
例えば三笠産業本社の代表電話番号は、
市外局番 市内局番
0 3 - 2 9 2 - 1 4 1 1
0 3 - 3 2 9 2 - 1 4 1 1
となります。(ファックスも 4 ケタになります)

その特長をまとめてみると……

- ① マイコンでモーターの回転を制御しているので、負荷の大きさが変化しても振動数がおちません。但し、過負荷の場合はモーター保護のため出力電圧を調整して回転を下げます。
- ② 一般の商用電源(单相100V)で使用できます。
- ③ 高効率モーターのため、モーター本体の小型化が可能となり、軽量でとても扱い易くなりました。
- ④ 過電流のときはコントローラーのマイコンが直ちに運転を停止させます。そして再確認のため、マイコンよりモーターに3回再起動を試みて良否を判断することによりモーター及びコントローラーを保護します。
- ⑤ 新設計の振動筒構造により、手許への振動を極端に減らしました。

マイコンバイブレーターの仕様

型 式	VH-32	VH-42	VH-52
振動筒の寸法 径×長(mm)	32×376	43×347	52×366
電 圧 (V)	58	58	58
周波数 (Hz)	400	400	400
電 流 (A)	3.0	5.0	7.0
振 幅 (mm)	1.7	2.0	2.3
振動数 (VPM)	12,000	12,000	12,000
重 量 (kg) (コード含まず)	5.0	6.7	7.5

この開発は三笠が現社会の数の問題に対して真剣に取り組んでいる姿勢の現れであり、これからも益々この業界に貢献すべく全力を尽くして参りたいと思います。

第32回・東部地区三笠代理店会 新緑の軽井沢で開催

去る五月十日、十一日の両日、軽井沢プリンスホテルに於いて「第三十二回東部地区三笠代理店会」が東部地区主要代理店六十二社、輸出商社十一社、報道関係五社の方々をお招きして盛大に開催された。

当日上野駅「翼の像」前に集合して頂き十一時三十分発特急あさみ十五号で軽井沢へ向かった。車中では顔馴染の代理店の皆様は、それぞれに近況を話し合うなど和やかな一時を過ごされた。

軽井沢駅からはバスに分乗してホテルの屋外に特設された新製品発表会へ、会場には新開発された製品、改良、能力アップ

された製品がズラリと並び技術研究所の担当者と共に、お客様を出迎えた。

会場の中央には、長時間の過酷な耐久テストをクリアして今回発表された画期的なバイブレーター、マイコンバイブレーター(電子制御バイブレーター)が展示されていた。これは振動筒に負荷が加わっても常に一定の回転数を保つ世界で初めての機構を備えた強力なバイブレーターである。振圧機では打撃力を大幅にアップした「MT-70V」、エンジン防音型ランマー「MT-68SGK」、スポット振圧も出来る前後進型コンパクト「MVH-300D」、リモートコントロール付インパクトローラー「MRV-3030」、セクターピン式4トコンバインドローラー「MRZ-40」、ホワイトマンの搭乗型パワートロウエル「JRT-36VE」等の新製品が研究所員により次々と実演説明発表が行なわれ、お客様にも展示品に触れて頂き、新製品に対する期待やお誉めの言葉を頂いて発表会を終了した。

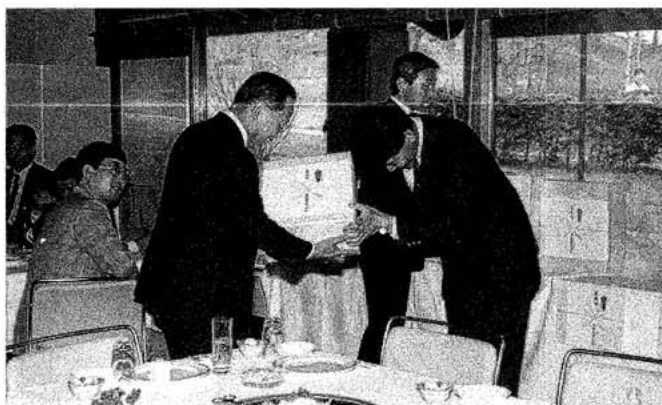
引き続き会場を会議室に移し、第二部代理店会議を開催し、三笠産業界谷社長より日頃の三



業績報告とともに感謝の挨拶をのべる京谷社長。



爽やかな高原の新緑。新製品説明の声もはずんだ...



観光コースかゴルフコースか…。写真はゴルフ表彰式。

笠製品に対する販売に、海外輸出に、且つまた広報活動にご尽力頂いている事に対して深甚なる感謝を申し上げた。

そして歓迎の言葉を述べた後、三笠も平成景気に支えられ国内、海外需要とも皆様共々好調

な一年でありました。との業績報告を行なった後、あらためて京谷社長より三笠製品に対する考えが語られた。「三笠産業界の進歩は、これからも振動機を軸にしていくという最高方針には変わりありません。コンクリート

バイブレーターを最重点に置き、その活動の一環としてまずコンビューター制御のマイコンバイブレーターの大キャンペーンを行なって行きます。従来の高周波バイブレーターも改善、改良を加え、益々充実したものにして

ていきます。新型ランマー、ローラー、油圧式コンパクトなども順次発売して行きます。今後も日々新しい要望、流れを取り入れ省力化、高能率化、軽量化、消音化、防振対策などのユーザーのニーズの多様化に対応する事により需要を創造し、それを獲得して行かなければなりません。」と三笠産業界の販売戦略の積極姿勢を語り今後とも皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い致しますと挨拶があった。

質疑応答後、斎藤館林工場長の挨拶で閉会した。

引き続き、野村総合研究所経営調査室長、佐野睦典先生による記念講演、「人材活性化戦略」のお話があった。これから年を追うごとに益々人手不足は深刻化して行く、その中でどの様に人材を確保し、社内の人材の質を高め、個々のパワーを高める事により企業の力をいかに高めて行くか、その為にはどのような戦略、戦術が必要かが詳しく語ら

れた。

優勝
伊藤忠商事(株)坂下部長
ベスグロ賞
双葉工業(株) 上島専務

北関東営業課 小野記

三時五十分からは「光琳の間」に於いて第三部の早坂茂三先生による「時局放談」と題した記念講演が開催された。

六時より第四部の懇親会が田中部長の司会にて始まり、窪田取締役より挨拶があり、次に代理店を代表して(株)金剛建機喜多社長、来賓を代表して(株)三菱銀行大阪西支店葉里支店長が挨拶され、(株)廣田機械製作所廣田社長、(株)乾杯の音頭にて宴が始まり、終始和やかな歓談が続く盛會に終了した。

れ、代理店の方々も熱心にメモをされていた。大変参考になった講演も終了し、その後ゆっくりくつろいで頂いた後、午後六時三十分から宴会場で第三部の懇親会が開かれ三笠産業界(株)谷専務の挨拶、伊藤忠商事(株)坂下部長の乾杯により宴が始まり終始和やかな歓談が続く一日が盛會に終了した。

翌日は代理店会ご列席各位の一層の親睦を深める為ゴルフコンペと鬼押し出し、小諸懐古園の観光が行なわれた。観光コースは白樺の新緑が美しい五月のさわやかな新緑の下、バスの旅を楽しんだ。ゴルフコースは軽井沢72ゴルフにて腕自慢の方々が参加してゴルフコンペが行なわれた。

続いて三笠産業界(株)谷社長より「昭和六十一年より公共事業の拡大によって業績は順調に推移している。また海外に関しても国内同様に着実に実績を伸ばしており、世界のトップブランド」として定着している。今後新たなニーズ多様化に対応し、時流の先端を行く製品を作りながらニーズに依っていき」と語った。引き続き代理店、ご来賓の紹介、マイコンバイブレーターの説明、質疑応答、記念撮影が行なわれた。

三時五十分からは「光琳の間」に於いて第三部の早坂茂三先生による「時局放談」と題した記念講演が開催された。

六時より第四部の懇親会が田中部長の司会にて始まり、窪田取締役より挨拶があり、次に代理店を代表して(株)金剛建機喜多社長、来賓を代表して(株)三菱銀行大阪西支店葉里支店長が挨拶され、(株)廣田機械製作所廣田社長、(株)乾杯の音頭にて宴が始まり、終始和やかな歓談が続く盛會に終了した。

平成二年度 西部地区三笠代理店会 大阪ロイヤルホテルで開催



より一層の親密な関係を…と挨拶する小野社長



晴天に恵まれた野外特設展示場のにぎわい

平成二年度の「西部地区三笠代理店会」が五月十六日、十七日の両日、商業のまち大阪市北区中之島の「ロイヤルホテル」に於いて代理店七十三社、並びに銀行、報道関係者多数のご参加を得て盛大に開催された。

十六日、十二時五十分ロイヤルホテルにご集合の後第一部の三笠製品実演説明会が野外特設展示場に於いて始められ、技術部の各担当者より本年度の新製品を中心に説明が行なわれた。

新世代のバイブレーターとして開発されたマイコンバイブレーターを初め、昨年発表しましたたFXシリーズにFX-30、FX-50を加え、原動機にはパワーアップされたインバーター等益々充実した高周波バイブレーター等を御覧いただきました。

又振圧機部門では、省力化と低騒音化を軸にハイジャンプ化されたMT-70V、又深夜工事に

活躍が期待されるMT-68SGK防音型ランマー、川崎重工(株)との業務提携により発売されるMRF-40、MRZ-40コンパクトローラー等を展示説明いたしました。又横堀りが可能となったバックホー取付け型のアースオーガー等、代理店の皆様も熱心に技術員に質問され、三笠の技術力に今年も満足された御様子でした。

二時二十分からはホテル三階「光琳の間」にて第二部の代理店会議が村川取締役の司会進行により行なわれました。

冒頭三笠建設機械(株)小野社長が挨拶に立ち、昨年度も売上高が過去最高であった。この事は、ひとえに各代理店の方々のご協力の賜物であると同時に、あきない」とは人と人とのつながりであり、これまで以上に各代理店の方々にはより一層の親密な関係を持つようご協力をお願い

優勝・ベスグロ賞
(株)西日本コンプレッサー
宮本社長
西販課大沢記

インドネシアで…… 修理技術講習会開催



去る五月二十四日から二十六日まで弊社インドネシア代理店主催による三笠製品の技術、修理講習会が開催された。参加者は同社の地方サブ・ディーラー、日系建設業者および地元建設業者のサービスマンを対象とし、東はバリ島から西はスマトラ島のメダン市まで合計二十五社、三十八名を招いて行われ、弊社からはインドネシアの出張は今回で五回目、現地ではすっかり顔なじみの営業サービスマンとして参加した。

今回の開催地はインドネシアの首都ジャカルタから南へ高速道路を通って車で約二時間ほどのところにあるブンチャック高原のピクニック・パークで行なわれた。ここは標高千メートル、日本で言えば軽井沢のような避暑地であり、ジャカルタでは日中の気温が三十度を越えるが、ここでは二十度前後とかなり涼しく、インドネシアでも有数のリゾート地である。

初日は午後一時にジャカルタに集合し大型バスにて同じブンチャック高原にあるインドネシアのアサフアリパーク（日本にあるサファリパークと同様のもの）にて観光し、夕刻にピクニック・パーク内のロッジに到着した。二日目は午前九時から午後四時三十分まで休憩と昼食をはさんで、パイプレータ、ランマー、コンクリートカッターの講習が行なわれた。講習時間が一時間ならば質疑応答も一時間といった具合に、日頃から三笠製品に携わっているベテランサービスマンが多数参加されていた。基本的な講習というよりは日々の修理などで困っていること、またメンテナンスについての質問が矢のように飛びだし大変充実した講習会となり、一日があつというまに終わってしまった。

三日目は午前中ローラーとプレートコンパクターの講習を行い、午後は総合的な質疑応答の時間に充てられた。すべての講習日程が終了した後は参加者に景品が当たる抽選会も行われ、盛り上がりたところで最後に代理店専務ジョンソン氏より一人一人に終了証が手渡され、盛大な中にも厳粛な講習会の幕が下った。



基本から修理まで熱心な質問が続出し充実した講習会でした。

今回のこの修理技術講習会は初めての企画であり、参加者にも大変好評でした。そして何よりも三笠の製品を通して、日本語、英語、インドネシア語が飛び交う中、言葉のハンデを乗り越えたコミュニケーションがとれたと同時に三笠製品に対する理解を深めていただけたことが何よりの収穫でした。締括りにあたり、今回のこの講習会を企画して頂いた代理店のジョンソン氏およびお骨折りいただいたスタッフの皆様へ感謝の意を表すると共に、参加された皆様へ今度は店先または現場で再びお会いできる日を楽しみにしています。

輸出二課 木村記

すまいる茶話(3) 語り手 長谷川 茂



回向院境内の力家

前回は相撲部屋の弟子達が親方夫人をどれだけ頼りにしているか、そして親方夫人がどんなにきめ細かい気配りをしているか、そんな話をしているうちに時間が過ぎてしまったが……、陰であれ陽であれ女性の力の偉大さは世界中どここの国の歴史を見てもはつきりしている。日本の場合はこれを怖れた男達が女を禁制とか女界禁などという制度を設けたと考えても見当違いではないだろう。

相撲の世界でも頑固に守り続けている女人禁制がある。それは土俵の上だ。土俵は神聖にして犯すべからず。女人は瞬時たよりも上るべからずであつて、千秋楽の表彰式に高名な女性大臣が登場を希望したとき、相撲協会理事長は「いまの日本にひとつくらいそんなところがあつてもよからうと思ひ」と静かにお答えしたそう。土俵女人禁制をクドクド説明するよりもこの方がよっぽどさわやかで、さすがの女性大臣もあつさり身を引いたのだ。それにしても見事な理事長のお断り辞礼だと私はとても感心した。

かわって女性が大手をふって活躍できる場所がある。いわゆる相撲茶屋で、今日の正式名称を国技館相撲サービスマン所という。国技館は入場門右側に椅

かく軒を並べた浅草仲見世のような茶屋街道？を歩くのも相撲ファンの楽しみのひとつらしい。退場するときなど身動きできないほどの人気なのだ。私ごとで恐縮だがわが妻も嫁もこの茶屋街道で活躍する女人の一部である。祖母の代から受けついできた屋号長谷川屋だが、今は協会の方針で正式には屋号を名乗らず十五番案内所になっている。その理由は各々の店の平等化を図る為ではなからうか。

ご存知のように茶屋の仕事の第一は枋席のサービスマンだ。通常では四人だけで一枋だが、広々ゆつたりと贅沢な観戦をしたい客は四人分の枋席料金を払って二人だけで楽しむ客もいる。場所によっては三人枋と呼ばれる変型もあるが、いずれもサービスマン所すなわち相撲茶屋を通して利用されるのである。たつ

つけ袴を着けた若い衆に案内され、枋席へ行きつくまでの気分は何とも言えない味だと言われ。如何にも日本的な匂いと味がここにありと賞賛する声を私が目立つようである。それはほと



国技館通りには横綱の字型を台座に閑取ブロンズが幾基も建つ。



稽古のあと何の物思いにふけつての外出だろうか…回向院山門前で。

はいくとも耳にした。それは実際にお世辞ではないらしい。外国人の接待に枋席がよく利用されるのもその生きた証であろう。相撲茶屋のお弁当は美味しくて定評がある。特に味のいいのがヤキトリ。酒がつき溜りのお土産もつく。枋席まで案内する「若い衆」のイナセな姿もいろいろは場内で「出方」が何でも御用聞きをした。至れり尽くせりだけに枋席の御値段はかなりのものだ。お得意様の席では飲食のツケも効くから豪遊の気分も味わえるわけ。こうした相撲茶屋のあり方について、私はある時期とても批判的な考えを方をした。何事につけても古い因襲とか不合理な慣習は打破しようという当時若い私はたとえ先代からの家業でも廃止はやむを得ないと考えたのだ。相撲界の近代化のために必要な改革だと信じたのだが、今もええそれは私の青臭い屁理屈であつた。

相撲茶屋の保存は大英断であり。そしてまさに大成功。枋席という消えゆく文化財を守ったと言えるだろう。

遠い昔の私の記憶の中で長谷川屋の枋席を二つ三つ買い切つては見物にきた常連の姿が浮かんでくる。その人は何時もお供を連れて乗り込み、立派な日の丸扇子を振って応援に声をからした。ひいきが勝つた時の熱の入れた喜びのような格調高くて絵になる風景だった。どんな職業の人で何処の人だったのかわるか、あの頃の私にはそんな興味よりも日の丸扇子をうち振るかっこいい姿ばかりに気をとられていたものだ。

古い思い出のついでに私は少年時代の両国界隈をふりかえつてみよう。本所緑町一丁目もつと昔は本所相生町五丁目といつたが、近所の子供たち第一等の遊び場が回向院だった。関東大震災以前の回向院本堂前には大きな大きなエンマ大王がいて

怖かったが、みんなで行けば怖くないというわけだ。家の近くには質屋があり人力車の車庫があり、写真機屋、眼医者、駄菓子屋は二軒もあった。一日に二銭が限度の小遣いから一銭で焼き芋が二本買えた時代である。私の家から電車通りをへだてたすぐ近くに伊勢ノ海部屋があり時津風部屋、出羽ノ海部屋、二所々関部屋へも近かった。私たちは時には稽古場を覗くために肩車を組んだりした。自転車の荷台に立って何度も覗きこんでいる丁稚小僧が店の主人らしいのを見付かってドヤされていたこともある。

今も国技館の裏手に残されている安田庭園はまた私たちが子供の遊び場で、園丁の目を盗んではエビや魚とりで夢中になったものである。あの庭園の池は潮入り式といって満潮の時に海エビが流れ込むのだ。

安田庭園と回向院を結ぶ大通りには今までは相撲の町にふさわしい市街だが私たちの少年時代はまだまだのどかな下町風景がただよっていた。回向院の境内に威風堂々と建っている力塚、往年の力士名が彫られている玉垣、相撲記者クラブの碑、それから奥の墓域には私の祖父が提唱して建立された「呼び出し太鼓塚」など、まるで相撲自然公園といつてもおかしくない両国界隈。「呼び出し太鼓塚」へはこの春も例年の供養司祭として長谷川屋の献花をした。相撲を愛し親しむ人々には一度ゆつくりと散策をおすすめしよう。

回向院に隣接していた旧国技館は日大講堂として使用されたのち解体され、現在だいたい新しい企業による大建設工事がはじまっている。三笠のコンクリートパイプレータ登場も間もないことだろう。次回は相撲番付の文字つまり相撲字のことや相撲関係者の事についても触れてみよう。

真剣な討議と楽しい盃 東北三笠レンタル会 営業幹部会催される



東北三笠レンタル会の重要な行事のひとつとして定着した営業幹部会も今年で第四回目を迎えた。景勝松島の一流ホテル「大観荘」にて三月二十三日、会員三十七社、三笠社員十二名が集い盛大な宴会となった。

第一部の製品説明会では第一回の当会で開発要求があり既に会員の方々にご利用いただいている MCH-M12 型ハンドカッターの性能比較実演を行ない、改めて優れた数々の点を再認識して頂いた。

また、前回の幹部会で提案があり今回試作出品した緑石用目地詰めパイプレーターに今一步の工夫が要求された。その他 M 型振動ローラーの A 型から B 型への改良に関しては多くの会員が待ち望んでいたことだけにタイムリーヒットだという有り難いお言葉を頂いた。

以上の例はほんの僅かの例に過ぎないが、この営業幹部会には会員がメーカーに要求すること、メーカーが会員のニーズを拝聴し具体化するという点で中身の濃い会合となっている。

引き続き行なわれた恒例の講演会は、昨今の労働力不足による各業界の工場の最新鋭化、ロボット化が経済界の大きな話題となつていく時節柄、建設機械の現状はどうなっているか、将来はどういう方向付けが必要かということが主眼で、日刊工業新聞東京本社第一工業部デスクの大越武氏の講演を拝聴した。

第二部の会議では中野会長から「この営業幹部会が本音を吐いてお互いのプラスを図る会である。この会合から生まれ、活躍している三笠の新製品もあり、心行くまでご意見を聞かせてほしい」という挨拶があった。

続いて京谷専務から三笠産業の開発姿勢の現状と将来の方針としてシヨ、福引大会などが行なわれた。三笠産業からは京谷専務が出席し、お祝いを申し上げた。

今年も五月十五日が回つてきた。足利の桜電機機では、恒例の萬善地蔵菩薩の供養祭が、お取引先、協力工場の方々ならびに従業員、総勢四十六名が参列して、午前十一時過ぎより執り行なわれた。

昭和四十五年五月十五日に萬善地蔵開眼供養が行なわれ、それ以来、毎年五月十五日に供養祭を行なつてきて、今回は二十回目の節目に当たる。

前日より降り続いていた雨は朝のうちに雷を伴って一段と激しさを増した。しかしそれも梢をゆるがす青嵐と共に、私どもの心配を吹き飛ばして見事に晴れあがった。吹き飛ばされたのは雨雲と心配ごとだけではない。烈風の中でお地蔵さまの後ろに紅白の幔幕を張るのに設営係はひと苦労。

やがて、覚本寺のご住職の読経で供養祭の幕は開かれる。一同順次にお焼香したあとは、ご住職の後について、皆で声を揃えて般若心経を唱え奉って供養祭は終了。続いてご住職から地蔵菩薩について承る。菩薩とは本来仏さまになるべき資格を備えた方なのだが、仏さまとの間にあつて衆生をお導き下さっている。桜電機の正門脇に佇んでいらっしゃる萬善地蔵菩薩は、従業員たちの働きぶりを、じっと見守つて下さる。社業発展と作業安全にご加護を賜ふことであらう。



森記



宇建機工(株)創立20周年記念祝賀会

栃木県の有力代理店である宇建機工(株)森田藤伸社長さんでは四月二十二日(日)福島県飯坂温泉のホテル聚楽に於いて創立二十周年及び同社鳥山営業所開設記念祝賀会を行なわれ社員四十名と取引商社、メーカー、協力業者等招待者約八十名が出席し盛大に行なわれた。

祝賀会は午後六時三十分から始まり、同社小野寺専務の開会挨拶の後、森田社長が挨拶に立ち、昭和四十五年五月に宇建機工(株)を創設、宇宙への広がりを願ひ、夢と希望を持つて一歩を踏み出し、激しい時勢の変遷の中でも、社員一同常に知力、体力、気力、活力の四ヶ信条の充実をモットーにして、この二十年を順調に歩き続け現在の宇建機工(株)、宇建リース(株)、宇建サービス(株)の三本柱の宇建グループを形成するまでになりました。

業績も目標を大きく上回り、長期目標も完遂出来る見込みであります。これも、偏に本日お越しを戴きました皆様の長年に亘るお引き立てによるものと、心から感謝申し上げる次第で御座います。」とお礼の言葉を述べ、

新潟出張所開設十周年
記念して大相撲見学会

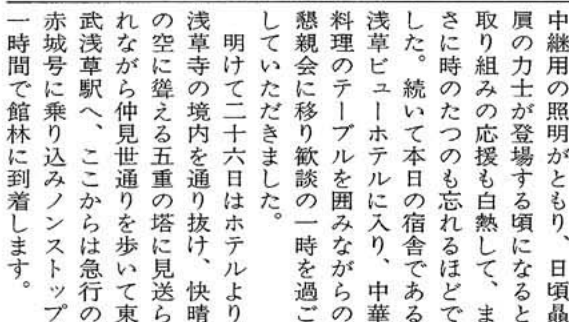
皆様のお陰をもちまして三笠産業(株)新潟出張所も開設十周年を迎えることができました。これもひとえに地元始め関係各位のご支援の賜物と深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

このたびこれを記念いたしまして「新潟出張所開設十周年記念セール・三笠館林工場並びに大相撲見学会」を企画し、去る五月二十五日(金)・二十六日(土)の両日にわたりご案内させていただきます。

まず、初日は午後二時に上野駅にご集合頂き、電車で両国へ。両国国技館には三時に到着。色とりどりの幟の前で記念撮影をして館内へ入りました。とりあえずはビール片手の観戦も幕下同志の対戦では力士の名前もわからず応援のしようもないのか遠慮勝ちに見えましたがテレビ

中継用の照明がとり、日頃最良の力士が登場する頃になると取り組みの応援も白熱して、まさに時のたつのも忘れるほどでした。続いて本日の宿舎である浅草ビューホテルに入り、中華料理のテーブルを囲みながらの懇親会に移り歓談の一時を過ごしていただきました。

明けて二十六日はホテルより浅草寺の境内を通り抜け、快晴の空に聳える五重の塔に見送られながら仲見世通りを歩いて東武浅草駅へ、ここからは急行の赤城号に乗り込みノンストップ一時間で館林に到着します。



第三十三回笠友会総会
今年は箱根で名物の宴

商売繁盛の守護神、金毘羅様の御利益の御陰か、一年は無事に過ぎ、陽春三月、お待ち兼ねの笠友会のシーズンがやって来ました。今回は総会の目的を専ら懇親に置いた関係で、開催地は箱根という至便の地に設定されました。

三月三十日、会員一同三々五々、小田急新宿駅に集合、一



大和物産 川越記

宇建機工(株)創立二十周年
祝賀パーティー盛大に挙る

栃木県の有力代理店である宇建機工(株)森田藤伸社長さんでは四月二十二日(日)福島県飯坂温泉のホテル聚楽に於いて創立二十周年及び同社鳥山営業所開設記念祝賀会を行なわれ社員四十名と取引商社、メーカー、協力業者等招待者約八十名が出席し盛大に行なわれた。

祝賀会は午後六時三十分から始まり、同社小野寺専務の開会挨拶の後、森田社長が挨拶に立ち、昭和四十五年五月に宇建機工(株)を創設、宇宙への広がりを願ひ、夢と希望を持つて一歩を踏み出し、激しい時勢の変遷の中でも、社員一同常に知力、体力、気力、活力の四ヶ信条の充実をモットーにして、この二十年を順調に歩き続け現在の宇建機工(株)、宇建リース(株)、宇建サービス(株)の三本柱の宇建グループを形成するまでになりました。

業績も目標を大きく上回り、長期目標も完遂出来る見込みであります。これも、偏に本日お越しを戴きました皆様の長年に亘るお引き立てによるものと、心から感謝申し上げる次第で御座います。」とお礼の言葉を述べ、

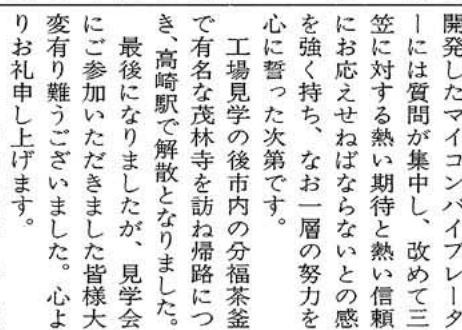
今年鳥山営業所を開設し、栃木県内に合計六カ所の営業所を擁する事になり、正に力強く逞しく成長した二十才の成人を彷彿とさせます。これを機に今後益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

北関東営業課 小野記



館林は近年大きな工場が進出し発展目覚ましく、歴史と伝統につつまれた城下町としての一面を守りながら工業都市へと変貌しつつあります。

館林工場では加工、組み立て、完成検査等の各工程をつぶさに御覧いただくと同時に主力製品、あるいは新製品の展示実演を通じて様々な質問やご意見を頂戴し、短い時間ではありましたが、誠に実り多い時間でありました。とくに次世代を担うパイプレーターとして弊社が



年間の御無沙汰は忽ち雲散霧消、約一時間半の小旅行を、一盞傾けながら楽しんだものであります。

ホテル「おかだ」に到着、ただちに総会が開催されました。議事は円滑に進行し、いよいよ会員期待の京谷社長のお話です。売上金額の着実な伸びと、その内容の充実ぶりを分かりやすく数字を挙げて説明して頂きました。また常に企業に新風を吹き込んで、清新の気を漲らせ、積極果敢に戦いを挑む京谷社長の経営哲学を承り、会員一同心からなる協力を誓ったのであります。

総会も無事終了、温泉で身も心もフレッシュ、本日のメインイベント、笠友会名物の宴会を迎えました。綺麗どころ大勢の効果もあつて宴は盛り上がり何時果てるとも知れず、盃を何度も重ねたのです。

翌日は朝食後自由解散、早くも来年の総会の楽しさを空想しつつ、別れを惜しんだのであります。